ストリームのプライベート編集機能

説明

Perforce Helix Core 2019.1では、ストリームのプライベート編集機能が導入されました。

プライベート編集機能を使用すると、他のユーザとは分離された環境でストリームを編集することができます。通常の編集(パブリック編集)時のように、保存した変更が即時に全体環境へ反映されることはありません。
また、プライベート編集されたストリームは、チェックアウトされてチェンジリストに追加されるため、詳細なテストを行えるとともに、高度なトレーサビリティ(追跡可能性)が確保されます。

参照ページ

・「P4Vユーザーガイド」- ストリームの編集
・「P4Vユーザーガイド」- ストリームの衝突解決

注意事項

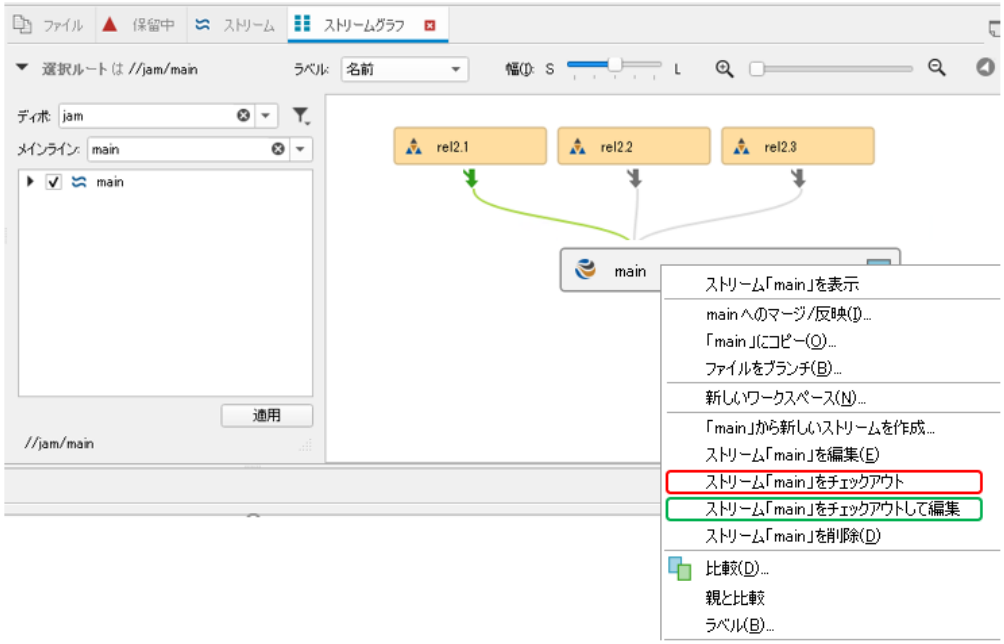
・ver.2019.1より前のHelix Coreで作成されたストリームでは本機能は使用できません。ver.2019.1へアップデート後に作成されたストリームにのみ対応しています。
・ストリームデポの再作成は不要です。

手順

1．[ストリームグラフ]タブから編集したいストリームを選択→コンテキストメニューの[ストリーム 「ストリーム名」をチェックアウト]を選択します。
※すぐに編集画面を開く場合は[ストリーム 「ストリーム名」をチェックアウトして編集]を選択します

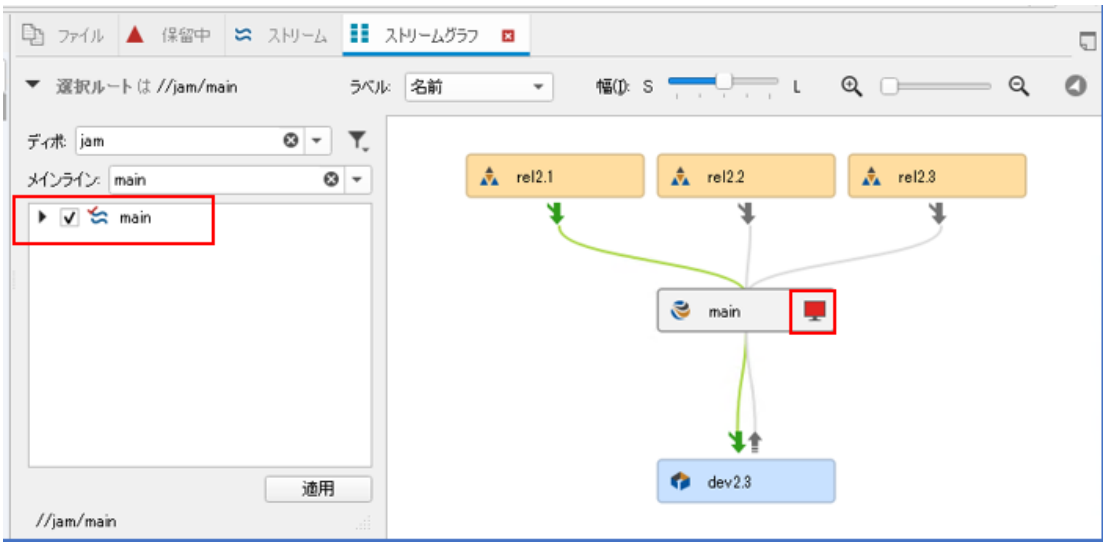
注意

チェックアウトするワークスペースに紐づいたワークスペースが指定されている必要があります。



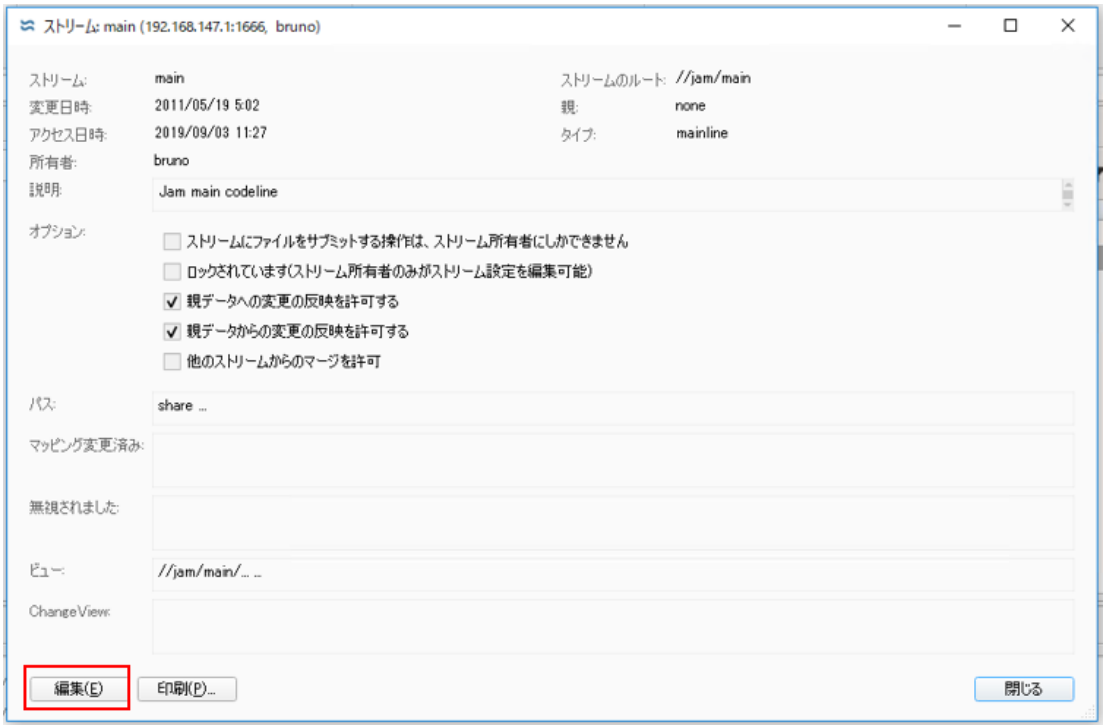
チェックアウトされるとワークスペースを示すアイコンが赤色で表示され、編集対象のストリームがデフォルトチェンジリストに追加されます。

【ストリームグラフタブ】



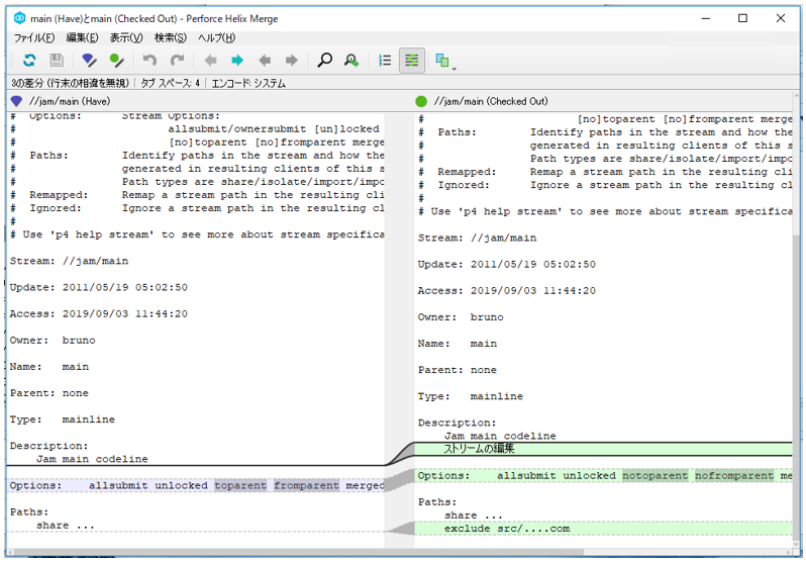
【チェンジリストタブ】

2．ディポ名をダブルクリックした後、[編集(E)]をクリックします。

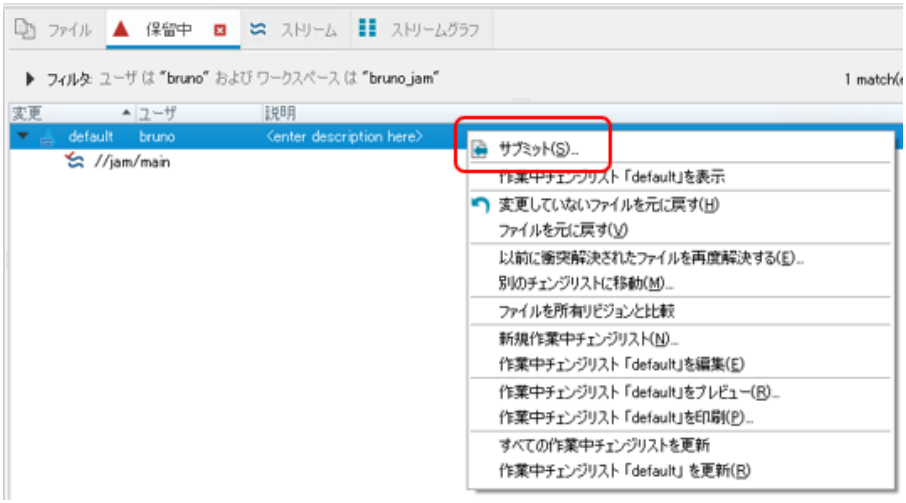


3．[ストリーム：編集]画面が開くので、編集を行います。
編集後、[OK]または[適用(A)]をクリックして保存します。
[Diff…] → [Base vs Checked Out(Target)]をクリックすると、編集内容の確認ができます。

【Diff…からの編集内容の確認画面】

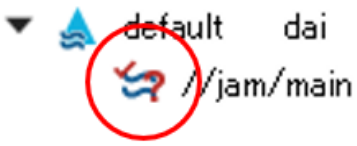


4．[チェンジリスト]タブからチェンジリストを選択→コンテキストメニューの[サブミット(S)]を選択します



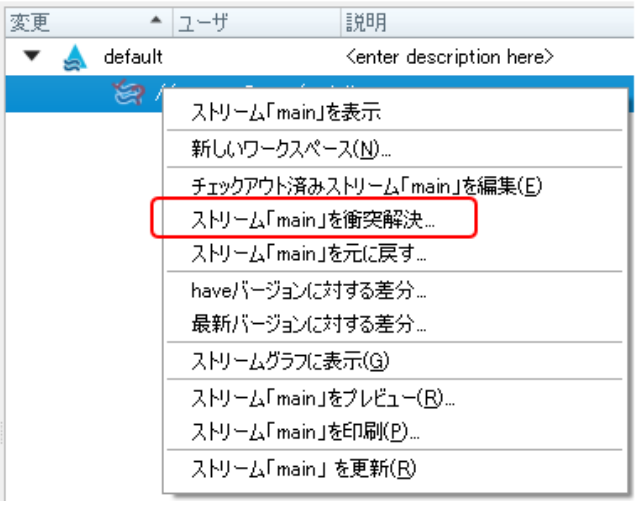
■ 同じストリームを別のユーザが編集していた場合

同じストリームを編集している別のユーザが存在した場合、ストリームへの変更がサブミットされた時点で、競合が発生している旨を示すアイコンが表示されます

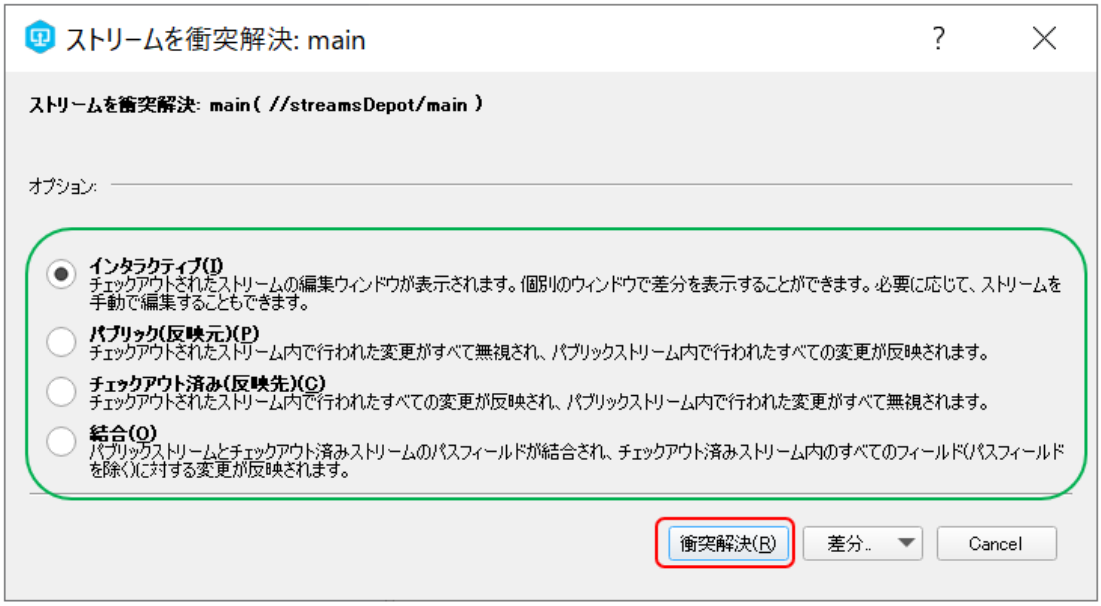


競合を解消する手順

1．競合が発生しているリストを選択→コンテキストメニューから[ストリーム 「ストリーム名」を衝突解決…]を選択します



2．[ストリーム 「ストリーム名」を衝突解決…]画面が表示されるので、対応方法を選択し、[衝突解決(R)]をクリックします。



オプションの説明

・インタラクティブ　：チェックアウトされたストリームの編集ウィンドウが表示され、必要に応じて編集します
・パブリック(反映元)：パブリックで編集された変更が反映されます(=プライベートで編集した変更は無視される)
・チェックアウト済み(反映先)　：プライベートで編集した変更が反映されます(=パブリックで編集した変更は無視される)
・結合：パブリックとプライベートのパスフィールドが結合されます